

# たまねぎレポート【369号】



成30年7月27日

## 社 内 報

### 阪南青果株式会社

6月の天候は、月平均気温は全国的に高かった。降水量は、北海道地方でかなり多かった。日照時間は、東日本の太平洋側では、梅雨前線や湿った空の影響を受けにくかったため、月間の日照時間はかなり多く、東・西日本の日本海側でも多かった。北海道では少なかった。関東・甲信越では、早くも29日に梅雨明けした。7月は5～7日に西日本で過去にない豪雨があり、岡山、広島を始め中国・四国地方が洪水、土石流に依る甚大

な被害を蒙った。

気象庁が発表した8～10月の3か月予報では、この期間の平均気温は、北・東・西日本では平年並みまたは高い確率ともに40%。降水量は、沖縄・奄美で平年並みまたは少ない確率ともに40%。月別予報は次の通り。

8月、北日本では、天気は数日の周期で変わる。東・西日本と沖縄・奄美では平年と同様に晴れの日が多い。

9月、北日本では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ない。東・西日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わり、西日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年に比べ晴れの日が多い。

10月、北日本の日本海側と東日本では、天気は数日の周期で変わる。北日本の太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が多い。

## 需要(市場)の動き

### 野菜の概況

6月の建値市場の野菜の入荷は、225,957トン前年比99%で概ね前年並みであった。価格はいずれの市場も前年を下回った。市場別の入荷と平均単価は、札幌市場の入荷は前年比97%、平均単価はkg¥209で前年比88%。東京市場は前年比99%の入荷で、平均単価はkg¥235前年比91%。名古屋市場は前年比103%の入荷で、平均単価はkg¥222前年比91%。大阪本場は前年比96%の入荷で、平均単価はkg¥228前年比95%。福岡市場は前年比96%の入荷で、平均単価はkg¥167前年比95%となっている。

建値市場の6月の玉葱販売量は、24,746トン前年比101%で、久し振り

に前年をやや上回った。平均価格は前年を大きく下回った。市場別の入荷量と平均価格は、札幌市場の入荷は前年比103%で、平均単価はkg ¥83前年比77%。東京市場の入荷は前年比116%、平均単価はkg ¥75前年比74%。名古屋市場の入荷は前年比106%、平均単価はkg ¥75前年比83%。大阪本場の入荷は前年比83%、平均単価はkg ¥81前年比89%。福岡市場の入荷は前年比62%、平均単価はkg ¥77前年比67%となっている。

日本農業新聞社の集計値に依ると、全国主要7地区の代表荷受7社の6月の主要野菜14品目の販売量は、95,443トン前年比99%(前月比93%)、平均単価はkg ¥126前年比88%(前月比95%)となっている。販売量が前年比増となっている品目は、タマネギが前年比11%増、バレイショが6%増、ニンジン・キャベツが3%増など5品目。前年比減となっている品目は、ピーマンが前年比24%減、ナスが14%減、サトイモが13%減など9品目。価格が前年比高となっている品目は、ピーマンとキュウリが前年比12%高、ナスが9%高など6品目。前年比安となっている品目は、ジャガイモが前年比52%安、ニンジンとタマネギが24%安など8品目となっている。

東京都中央卸売市場の5月の野菜の入荷は、129,986トン前年比99%(前月比91%)。平均単価はkg ¥235前年比97%(前月比102%)で総じて横這い状態で推移した。主要品目で入荷が前年を上回った品目は、タマネギが前年比116%、ハクサイが109%、ネギが106%など6品目。前年を下回った品目は、ナスが前年比84%、サトイモが前年比87%、ダイコンが前年比88%など9品目。販売単価が前年比高であった品目は、ナスがkg ¥404で前年比111%、キュウリがkg ¥274で107%、ピーマンがkg ¥371で106%など7品目。前年比安の品目は、バレイショがkg ¥69で前年比47%、ニンジンがkg ¥102で72%、タマネギがkg ¥75で74%など8品目となっている。

### 東京都中央卸売市場の6月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	129,986	99.4	91.5	235	91.2	102.2
た ま ね ぎ	12,092	115.8	93.5	75	74.2	83.3
キ ャ ベ ツ	15,878	103.6	79.5	80	102.2	127.0
ば れ い し ょ	9,497	105.0	100.3	69	46.8	58.5
レ タ ス	8,527	96.6	108.4	135	102.3	88.8
ト マ ト	8,385	95.2	76.3	268	87.4	99.3
き ゆ う り	7,120	94.1	77.1	274	106.7	106.2
だ い こ ん	7,110	88.1	79.2	101	92.0	118.8
に ん じ ん	6,867	98.9	66.2	102	71.9	77.3
は く さ い	6,856	109.0	98.2	73	101.8	140.4
ね ぎ	3,950	105.9	109.5	354	85.5	83.5
か ぼ ち ゃ	2,782	94.1	111.7	201	85.5	100.5
な が い も	1,172	132.1	114.1	312	58.8	103.3
に ん に く	269	88.7	77.8	949	94.7	94.3
れ ん こ ん	186	112.0	53.6	1,126	83.6	195.5

#### 玉葱の概況

##### 東京市場

東京都中央卸売市場の6月の玉葱の入荷量は、12,092トン前年比116%(前月比94%)で前年比増、前月比減となり、消費に回復傾向が見られるものの価格的には伸び悩み傾向続いている。主力は佐賀物で入荷は6,668トン前年比187%、占有率62%前年比9ポイントアップ。次いで兵庫物の入荷は

1, 5404トン前年比134%、占有率13%前年比2ポイントアップ。香川物の入荷は1, 098トン前年比79%、占有率は9%前年比4ポイントダウン。北海物は653トンの入荷で前年比78%となっている。月平均単価はkg ¥75前年比74%(前月比84%)。旬別では上旬がkg80、中旬が¥71、下旬¥75で、中旬に底値を固め下旬には回復に転じた。産地別の月平均単価は、佐賀物はkg ¥66、兵庫物はkg ¥92、香川物はkg ¥85、北海物はkg ¥120となっている。佐賀物は荷口毎に品質のバラツキがあり、安値に落ち込んだ。北海物は事前契約で、事前に売れつないでいたことで高値販売となっている。

7月に入り、主力の佐賀が天候不良と先高期待ムードで出荷抑制傾向となり、入荷は予想を下回る日が続いた。北海物が出回るまで期間は1か月ならず、との情報を流しても増えず、市場の在庫が減少し、市況は強含みとなった。兵庫物の入荷は概ね順調だったが、産地の希望値が高く、荷動きは今ひとつであった。産地が強気配に転じたところに西日本の豪雨被害が発生し、野菜の収穫、出荷、輸送に多くの障害が発生した。中旬になり西日本の豪雨被害の影響で、葉野菜が値上がり、玉葱にも引き合いが強まり、強気配に転じている。佐賀物はJAの除湿乾燥物が主力となり品質は改善され、兵庫は割高ながら品質良好で、荷動き良く、相場は堅調に推移している。此処に来て、佐賀、兵庫とも銘柄別の品質格差が大きく、銘柄別の価格格差が開いている。7月1日～20日の販売量は6, 054トン前年比108%(佐賀が前年比167%、兵庫が前年比129%)、平均単価はkg ¥90前年比92%。となっている。

### 名古屋市場

名古屋市中心卸売市場の6月の玉葱の販売量は、4, 802トン前年比106%(前月比88%)で、前年比増、前月比減であった。主力は5月に続き愛知物で、入荷は2, 248トン前年比87%、占有率は47%で前年比10ポイントダウン。兵庫物は1, 532トンの入荷で前年比151%、占有率は32%前年比9ポイントアップ。北海物は928トンの入荷で前年比112%、占有率は19%で前年

比1ポイントアップ。平均単価はkg¥75前年比83%(前月比94%)で、弱保合で推移した。産地別の平均単価は、愛知物がkg¥70で前年比80%、兵庫物がkg¥91で前年比78%。北海物がkg¥54前年比87%となっている。

7月に入り、愛知物は終盤となり皮ムケ、腐敗が目立ち品質劣化で投げ売り状態となった。兵庫物は産地JAに出荷増を要請するも、人手不足を理由に応じて貰えず、品薄状態が続き市況は堅調に転じた。月半ばには、兵庫のJAからは、2Lは値上げ販売よりも量的販売を希望するとの連絡を受け、豊作と在庫増を認識した。現在は、兵庫物主力の販売だが、産地は月半ばと異なり、強気に転向し希望値を上げて来ている。富山物は兵庫に比べ廉価で売り易いが、入荷が不安定で、固定客が付かない。

### 大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の6月の玉葱の販売量は、2,939トン前年比83%(前月比92%)で、府県産地の中晩生の出荷が最盛期となったものの、販売量は前年・前月を下回った。主力の兵庫(淡路)物の入荷は1,697トン前年比126%、占有率は58%で前年比20ポイントアップ。佐賀物は863トンの入荷で前年比147%、占有率は29%で前年比12ポイントアップ。北海物は149トンの入荷で前年比327%占有率は5%で前年比4ポイントアップ。主産地の入荷は前年を上回ったが、長崎を始め中小産地の入荷が激減した。平均単価はkg¥81前年比89%(前月比96%)で軟化傾向で推移した。産地別の平均単価は兵庫物がkg¥90で前年比79%、佐賀物がkg¥63で前年比64%、北海物がkg¥97で前年比84%となっている。主力産地の入荷量は前年比増であったが、総入荷量は前年比大幅減であった。平均単価は前年比89%で1割安であった。

7月に入り、兵庫(淡路)物のウエイトが高まったが、例年と異なり10kg詰めは荷動きが鈍く弱保合、20kg詰めは荷動きが順調で強保合の状態が続いている。西日本では5日~7日の豪雨による洪水・土砂崩れの被害で、輸送障害

が生じ、道路の決壊、鉄道不通で佐賀物の入荷が中断した。品不足の市場からの引き合いで転送需要が活発化し、20kg詰めは堅調市況が続いた。主力の淡路物は豊作を反映して、球流れは大粒化して、2Lが多くMが少なく、市況は2L弱保合、M強保合の状態が続いている。佐賀の除湿乾燥物は、品質の安定が評価され、固定客が増えている。例年、7月下旬は高温による消費の減退や夏休みに依る学校給食の中断で、需給は緩み市況は軟化するが、今年の野菜は豪雨被害による供給減と猛暑による生産減で、葉野菜を中心に値上がりが続く。玉葱産地にも強気ムードが拡がり、指示価格の値上げが続く。産地主導の販売となり、市況は強保合の展開になっている。1日～20日の販売量は1,761トン前年比93%、平均単価はkg¥91前年比105%。産地別に入荷は、兵庫物が前年比75%、佐賀物が前年比251%となっている。

### 福岡市場

福岡市中央卸売市場の6月の玉葱の販売量は、2,096トン前年比62%（前月比107%）で、引き続き前年比・前月比ともに大幅減となっている。市況の低迷で主産地の出荷が後ズレしたことが入荷減に繋がった。主力は佐賀物で、販売量は1,259トン前年比60%、占有率は60%で前年比4ポイントアップ。北海物は289トンで前年比46%、占有率は14%で前年比4ポイントダウン。長崎物は242トンで前年比74%、占有率は12%で前年比2ポイントダウン。平均単価はkg¥77前年比67%（前月比91%）で、前月に続き軟化した。産地別の平均単価は、佐賀物がkg¥69前年比60%。北海物はkg¥122前年比109%、長崎物はkg¥67前年比79%となっている。北海物は、事前契約で割高となっている。

7月に入って、主力の佐賀物の入荷が少なく、産地に出荷要請をしたものの受け入れられず、買い注文に応じきれない日が続いた。西日本の豪雨災害後は、九州外への出荷は輸送難で入荷が増加したものの、品質にばらつきがあり、価格差が広がった。入荷増と品質不安から荷動きが鈍化した。月半ばから長崎

(平戸)物が入荷した。品質は良好だが指示価格が高く売り辛い。此処に来て、佐賀物は格外品のウエイトが高くなっている。猛暑が続き引き合いは弱く、産地の指示価格は高く、在庫を抱えながらの販売となっている。高温下の手持ち在庫は品質低下を招く懸念があり、気を揉んでいる。1日～20日の販売量は1,430トン前年比71%、平均単価はkg¥88前年比78%となっている。盆に向けて需要が回復することを期待している。

### 7月26日(木)の建値市場の玉葱市況は次の通り

#### 【札幌市場】 入荷75トン、弱い

北 海 20kgNT2L ¥2,300～1,850、L大 ¥2,300～1,850、L ¥2,000～1,850、  
M ¥2,000～

佐 賀 20kgDB2L ¥2,300～2,000、L ¥2,300～2,100、M ¥2,100～2,000。

#### 【太田市場】 入荷242 トン、強保合

佐 賀 20kgDB2L ¥1,800～1,700、L ¥2,200～2,000、M ¥2,000～1,900。

兵 庫 20kgDB2L ¥2,000～1,700、L ¥2,200～2,000、M ¥2,000～1,900。

#### 【名古屋北部】 入荷187トン、強い

兵 庫 20kgDB2L ¥1,800～1,600、L ¥2,200～2,000、M ¥2,100～2,000。

富 山 20kgDB L ¥1,900～1,800、M ¥1,700～1,600。

#### 【大阪本場】 入荷92トン、強い

兵 庫 10kgDB2L ¥1,000～ 900、L ¥1,200～1,000、M ¥1,000～

兵 庫 20kgDB2L ¥2,000～1,800、L ¥2,300～2,100、M ¥2,200～1,900。

佐 賀 20kgDB L ¥2,100～2,000、M ¥2,000～1,900。

大 阪 10kgDB L ¥1,000～ 900、M ¥900 ～ 850。

和歌山 20kgDB L ¥1,500～1,400、M ¥1,400～1,300。



## 【福岡市場】 入荷130トン、弱保合

佐 賀 10kgDB2L ¥1,100~1,000、 L ¥1,100~ 900、 M ¥900~ 800。

長 崎 10kgDB2L ¥1,300~1,200、 L ¥1,300~1,200、 M ¥1,000~ 900。

## 供給(産地)の動き

7月5~7日の豪雨被害とその後の猛暑続きによる生育の停滞で、野菜の需給が大きく変動し、葉物類が品薄高になったほか、北海道地方の日照不足で北海道産の野菜の生育が停滞し、大根、人参、キャベツなども高騰した。こうした環境変化を受けて、府県の玉葱産地も先高期待ムードが強まり、佐賀、淡路の産地相場は日を追って値上がりした。

北海道産地では、6月末から雨天曇天が続く近年にない日照不足で、野菜の生育遅れが目立っている。今年の玉葱は、育苗が順調で定植期も好天に恵まれ例年よりも1週間前後も早く作業が終わり、初期生育は順調に推移し、豊作が期待されていたが、6月後半からの天候不順で生育が停滞した。地域別・圃場別にかなりのばらつきが生じ、作柄見通しが不透明になっている。

### 府県産地

佐賀では、収穫が後ズレした中晩性は豊作で、平均反収は6トンを上回ったが、安値市況で出荷は後ズレしたことで、収穫後の在庫は前年を大幅に上回った。短期貯蔵(囲い)の出荷に切り替わってからは、高温早魃時に発生する黒煤(すみ)と乾腐病が多発した。商品化率の低下で出荷焦りの傾向が強まり、6月後半から出荷が活発化したことで、在庫の減少が目立って来た。現在の産地在庫は、前年よりは多いものの、猛暑の影響で乾腐病、黒煤の発生率は昨年より高い。また、在庫は大口生産者に偏在している。今年、市場で好評を博した除湿乾燥品はJAが3,250トン、商系が約500トンの出荷を計画しているが、出荷は順調で、一部を残し7月一杯でほぼ終了する。

兵庫県の主産地淡路島では、6月収穫となった中晩生は予想以上の豊作で、

平均反収は7トンを超えた。大粒化で球流れは2Lの比率が高いが、病害が少なく品質は良好。中晩生の球流れは、2L35%(前年15%)、L40%(40)、M20%(35)、S5%(10%)で、収穫時には収穫用のポリコン不足が深刻化した。7月半ばから冷蔵入庫が始まっている。現在の産地相場は20kg切り落とし裸値¥1,300で前年並みの水準。西日本の豪雨と猛暑、北海道の日照不足で野菜価格の値上がりが続いており、産地関係者に先高期待ムードが強まり、冷蔵入庫は前年を上回る予想。即売も盆に向けて市況は一段高と見て出荷は先送り傾向にある。

### **北海道産地**

定植期は天候に恵まれ、作業の終了は1週間前後前進化した。活着・初期生育も順調で前進化していたが、6月下旬からは雨天曇天が続き日照不足と低温に見舞われ、生育が停滞し平年並みに後退した。生育に地域差はあるもののいずれの地域も多雨と日照不足で、軟調徒長傾向で、水焼け(湿害)、軟腐病の発生が心配されている。雨上がりの合間を縫って防除に励んでいる生産者を見掛けるが、晴天が続かないと一斉防除は望めない。既に一部で極早生の走りが道内市場に出廻っている。前年より5日程度の遅れである。此の先晴天に恵まれれば、極早生の出荷は盆前から本格化する。早生系の多収穫品種と言われるパレットベアは前年比124%の作付となっている。現時点の全道的作柄予想は、生産者の中で豊作、平年作と見方が半々に分かれている。いずれにしても平年作は確保されると予想される。

### **外国産地**

6月の輸入は速報値で、25,605トン前年比76%(前月比105%)となっている。国別では中国が23,112トン前年比82%。ニュージーランドが1,201トン前年比32%。オーストラリアが1,267トン前年比137%となっている。

中国、6月の主産地は江蘇省から山東省に移行している。山東省の作柄は好転し豊作と聞いている。この先も順調な輸入が予想されている。現在日本向

け価格は、20kg・C&F・剥き玉 \$ 5.40、皮付き \$ 4.60 で弱含んでいる。此の先、北海道産の作況にもよるが、廉価による販売攻勢が続くと見ている。

アメリカ、日本向け主力産地のワシントン州の作付は前年並み、旱魃傾向の天候が続き、生育は停滞気味。予想生産量は63万トン。作柄の確定は8月中旬になる。現在の提案価格は50㍍・C&F・ \$ 12~10。

### 8月の市況見通し

6月の安値市況で、意気消沈していた府県産地では、7月の西日本の豪雨と猛暑、北海道の多雨寡照で、産地のムードが一変している。市場サイドでは、産地の強気の指示価格に追随止む無しの状態で、産地主導の販売態勢に移行している。天候異変で需給変動の激しさは野菜の特色だが、強気が過ぎると墓穴を掘ることになる。現時点の府県物の産地在庫は、兵庫、佐賀の大産地以外はバラツキが大きく、多い少ないまちまちだが、全国的には前年を上回ると予想される。北海物の出回りは当初予想よりも遅れるものの、8月の出回り量はホクレン計画の3万トンよりも多くなると見ている。相場は需給環境とムードで変動する。月前半は前年より高く、月後半は前年より安いと予想する。(了)